

実践活動事例

◆南地区ブロック

堀		川	…	P 95
堀	川	南	…	P 98
光		陽	…	P100
山		室	…	P103
山	室 中	部	…	P106
太		田	…	P109
蝮		川	…	P112
新		保	…	P115
熊		野	…	P117
月		岡	…	P120

《南地区ブロック民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

1. 高齢者・子ども・困窮者支援の強化：訪問・見守り・交流で孤立を防止
2. 防災対応力の向上：避難支援・緊急連絡体制・地域マップ整備で備えを強化
3. 委員の育成と協力体制：定例会・事例共有・誇りある人づくりを推進
4. 地域団体との連携強化：包括支援センター・学校・社協との協働を促進
5. 広報と啓発活動の充実：PR チラシ・回覧板・地域行事で役割を周知
6. 多世代交流の促進：サロン・カフェ・ふれあい活動で絆を育む
7. 支援ネットワークの整備：情報交換・住民支えマップで支援の精度向上
8. 地域力の底上げ：住民参加型の仕組みで共助の文化を育てる

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
堀川校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

1 事例項目

民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくために

日本が誇るべき財産ともいうべき、民生委員・児童委員制度を守り、次代に引き継いでいく。

2 事例テーマ

単位民生委員・児童委員協議会の機能強化による民生委員・児童委員への支援

3 概要

(1) 地域情報

富山市中心部に位置し、富山市消防局富山消防署、富山市民病院等が有り、大型小売店、高層集合住宅、広い戸建住宅が多い。また昔からの田畑を所有している地主が多い。

堀川校下の人口 令和7年4月末 世帯数5,857世帯 人口11,703人
65歳以上3,385人 28.9% 15歳未満1,370人 11.7%

(2) 活動の目的

民生委員・児童委員が誇りをもち、志と善意の気持ちで活動しやすくする。

(3) その理由

民生委員・児童委員の改選時には、会社員や高齢者が多いため、25人の約半数の委員が交代し、スムーズな引継ぎができない。そのため新委員が活動内容を十分理解しておらず、一人で苦慮していることが多い。

負担となる会長などの役員がなかなか決まらず、何年も同じ委員が役員となってしまう、新しい活動が行えず、また改善もできず、工夫が不足している。

(4) 活動内容

実施した工夫のある具体的な活動内容

① 民生委員児童委員のなり手を確保するためのPR活動

町内の会議や行事には、積極的に参加した。必要なときは、オレンジ色の民生委員・児童委員ベストを着用しPRしながら活動した。

② 仕事や家事との両立を図る。

定例会に委員が参加しやすいように夜間に開催し、精選した内容をレジメにまとめ、会議時間の効率を図った。

定例会では、連絡、協議、決定を行うだけでなく、事例学習を行い、委員の活動に必要な情報や知識を得ることによって委員の資質を高めた。

③ 限られている委員の活動時間で効果的な活動を行った。

「災害時要支援者マップ」を作成し、一人暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者を把握し情報を共有して、安否確認、見守り、声かけを行った。

地区住民が楽しく集える行事「地域ぐるみ福祉事業」を精選し、仕事や家事

で忙しい委員が、無理なく担当できる企画運営を図った。

- ・楽しい健康体操
- ・越中おわらを楽しむ会
- ・かわいい小物作り
- ・うるおいのひとときを皆さんで
- ・ひな祭りコンサート

人手が必要な大規模地域行事に協力し、各町内、各種団体、地区住民に委員の活動をPRした。同時に委員の活動意欲や達成感を高めた。

- ・夏の交通安全キャンペーン
- ・敬老の会
- ・ふるさとづくり文化展

一人暮らし高齢者への年末見舞い品の配付活動行い、家庭訪問を通して、身近な委員の存在を印象づけた。

「命のバトン」の配付を行った。

- ・本人の家族情報、医療情報を記入した用紙を筒型のプラスチック容器に入れ、保管してもらい、救急隊員に活用してもらうようにした。本人の安全を図るとともに、すぐに現場へ行くことができない委員を助け、救急隊員が親族へすぐに連絡できるようにした。

委員活動のふり返し会を開き、情報交換、共通理解、親睦を行い、委員が孤立しないようにして、委員のストレスの軽減を行った。

(5) 活動の成果

夜間定例会の委員出席率が高くなった。資料を見て分かるものは説明を省き、また難しい物は、丁寧な説明をすることによって、書類の提出がより正確でスムーズになった。

毎回の事例学習では、意見交換や質問が活発になり、身近な課題をより早く解決しようとする意欲が高まった。

行事の修正や新しい行事を考えようと前向きになった。委員が積極的に行事を行い行事を通して地区住民とのつながりがより近く強くなった。

(6) 課題と改善点

地区の民生委員児童委員は、高齢者が多く、病気やけがによる入院や任期途中での交代があった。家族の介護をしている委員は、活動時間の確保に努力している。また会社員、自営業が多く自分の生活のため、仕事が大切となるので、会議、行事、研修は無理に出席させることはできない。まず委員の担当する町での活動を重要した。会議、行事、研修は会長が委員に出席をお願いすることになる。委員の誇りと志と善意に頼った。

地区会長は、自分の担当する町の活動と会長の活動があるので、負担となっている。一年交替が規則だが、三年から六年が普通になっているので、なり手がいない。副会長や会計も負担となっている。会計は、仕事の都合で一年交代にした。

また副会長は2名として、行事と研修を担当してもらい、会長は定例会の、議題の企画運営に専念する。事前の役員会を行い、役員の見解を聞き、反映させて定例会がまとまるようにした。各行事にリーダーを設け、委員全員で仕事を分担し、役員の負担を減らした。監事は、以前雑用もしていたが、会計監査だけを担当した。

各町内会長へ、民生委員・児童委員の活動内容を正確に伝えることにより、理解してもらい、できるだけ無理のない、ふさわしい人物を推薦してもらいたい。どうしても仕事や家事、家族の介護に忙しい人は推薦しないようにする。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

一人暮らし高齢者や高齢者世帯は年々増加しているが、民生委員・児童委員の高齢化、後期高齢化、委員の家族への老老介護があり、さらに委員は、自分の仕事や家事に追われ、活動を達成することに不安を感じている。今後さらに行政や包括支援センターや町内の協力、支援が必要である。

(2) 地区民生委員児童委員協議会として課題への取り組み方

行政や包括支援センターや町内の協力、支援を受けながら、現状を維持する。

委員の欠員がないよう、委員が孤立しないように、定例会では時間の効率化を図りながらも、委員の悩みを聞き、解決する。

地区会長や役員は指示だけでなく、委員同士の協調と助け合い、親睦を図るようにする。協議会としてのまとまりを大切にし、よりよい活動を進めていく。

(3) 今後、取り組んでいく目標

町内会長と町内会では、できるだけ健康で年齢の若い人を民生委員児童委員として推薦してもらう。その結果、委員は誇り、志、善意をもって、迅速でスムーズに町内の人の課題に対応し、課題を行政や関係機関につないで解決できるように住民を支援する。

(4) 連携する機関（重要度順）

町内会長と町内会 包括支援センター 地区センター 関係機関等

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

委員の改選時

退任委員

民生委員児童委員が自分の活動を十分に説明し、十分理解してもらえるように、市や地区の民生委員・児童委員協議会、自作の資料を使い、新任委員の活動の手助けをする。

再選委員

資料の再確認、積極的に会議、行事、研修に積極的に参加し、資質を高め、次の委員の引き継ぎを的確にスムーズに行えるようにする。

《堀川校下民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

高齢者、障がい者、生活困窮者、気になる人の課題を的確につかみ、支援するために行政、包括支援センター、関係機関へ迅速につなぐ。

同時に地区民生委員児童委員協議会の全委員が協力し、誇りと志と善意のある民生委員・児童委員の人づくりに努める。

災害発生時、委員は活動10か条に基づき、地域住民と協力し、いっしょに避難したり、避難所の活動を進んで助けたりする。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック

堀川南地区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例事項

重点2. さまざまな課題を抱えた人々をささえるために

(ポイント)

これまで以上に地域住民とのネットワークを構築し、地域の「気になる人」を早期に発見し適切な支援につなげる。自らの訪問回数の頻度をも高める

○事例テーマ：積極的な訪問活動を通じた住民との関係づくりの推進

(1) 現状

担当地域は地区センター、包括支援センター、介護施設が何処からも徒歩10分以内に位置し住民が直接相談も可能な環境にあり、一方で利用者の中には施設の車では来ないで欲しいとの声も聞かれ、相談自体を知られたくない高齢者も。民生委員とはいえ他人に相談すること自体勇気がいる事 相談後も秘密保持を含め不安感を抱かせない配慮も必要 そんな条件の中で民生委員として自らも目立たず、相談し易い雰囲気作りを心掛け一人世帯の見回りを最優先課題とし、特に引き籠りがちな高齢者の話し相手となれればと思う

(2) 高齢者世帯の家族構成把握と個別見回り先の特定(担当地区の全世帯数：約270)

令和4年と7年の比較

令和4年 7年

① ひとり暮らし高齢者台帳登録世帯数	: 10	12 (重点見回り世帯)
② 行政の名簿：ひとり暮らし高齢者世帯数合計	: 31	42
(内) 同居人有り、施設入居世帯数	: 18	24
(内) ひとり暮らし世帯数	: 13	18 (重点見回り世帯)
③ 行政の名簿：高齢者世帯数合計	: 47	46
(内) 同居人有り、施設入居世帯数	: 14	10
(内) 高齢者二人世帯数	: 33	36

④ その他、同居人が居て名簿に未掲載(扶養家族)の高齢者が複数います

(3) ①②③対象者は全て訪問、民生委員の連絡先を配布 留守宅は投函

同時に同居人の有無を確認、命のバトンの説明と推進 ひとり暮らし世帯には台帳登録制度を説明

(4) 令和7年度の重点見守り30世帯を週1回～半年に1回の定期訪問を課題とする

(5) 訪問する中での体験

- ① 台帳登録世帯は週1回定期訪問とするも頻繁に来なくて良いと遠慮の声あり
- ② 訪問を呼び鈴で知らせるも気付かず玄関で電話を掛けることも
- ③ 台帳登録世帯で車が在るが呼び鈴、電話で応答が無く、親族に電話する
- ④ 週一訪問世帯から予定日の雪深い朝、寒いので来なくて良いですよと電話入る
- ⑤ 過去3年間で当方にはゴミ屋敷問題が一番複雑であり未だ解決に至らず

(6) 新たな課題

夫々の悩み暗い気持ちを明るく取り戻すために関連部署との連携と常に自問自答

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- ①地域内で、「堀川南民生委員児童委員協議会」の組織が何をしている団体なのかの認識が浸透していない。
- ②小学校・中学校において、民生委員が児童委員を兼ねていることを認知している父兄がほとんどいない。
- ③町内会長で1年、2年で交代する町内会長は、民生委員児童委員の活動に対する内容把握が無い。
- ④「堀川南民生委員児童委員協議会」の委員が、「堀川南社会福祉協議会」の副会長及び理事を兼任している為、地域住民の方々は、「民生委員児童委員協議会」が「堀川南社会福祉協議会」の下部組織との認識がある。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ①小学校、中学校において、「堀川南民生委員児童委員協議会」の活動内容の情報提供を行う。
- ②自治振興会の活動の中や、町内会の会合及び回覧板の活用を行う。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- ①堀川南小学校において、全民生委員児童委員と教職員との情報交換会を年1回実施する。
堀川南小学校において、民児協三役と主任児童委員併せて5名の情報交換会を実施する。
- ②町内の回覧板を活用し、「堀川南民生委員児童委員協議会」のPR活動を実施する。

(4) 連携する機関(重要度順)

- ①堀川南小学校
- ②校下町内会
- ③堀川南長寿会連合会及び各町内会長寿会

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

- ①堀川南小学校において、5月の民生委員・児童委員の日の活動強化週間に併せて全校生徒に、PRカードとPRチラシの配布を実施する。
- ②堀川南小学校において、民児協の委員全員と教職員との合同会議は、毎年7月に実施する。
- ③堀川南小学校において、民児協三役と主任児童委員併せて5名は、学期毎に情報交換会を実施する。
- ④町内会長寿会に対して、5月の民生委員・児童委員の日の活動強化週間に併せて、高齢者世帯にPRカードとPRチラシの配布を実施する。

《堀川南民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026~2028』》

- ①ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、子どもたちの支援を中心に据えた活動の推進。
- ②地域住民や学校との情報交換会を定期化し、認識向上を図る。
- ③回覧板やPRチラシでの広報活動を強化し、役割を明確化する。
- ④関係機関との連携を深め、支援体制を一層充実させる。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック

光陽校区民生委員児童委員協議会

(様式1)

重点 2 さまざまな課題を抱えた人びとをささえるために

テーマ 訪問活動とお便り活動を通じて住民との関係づくりを深める

1 地域の特性

光陽校区の高齢者の割合は、市内では低い方である。とはいえそれなりに一人暮らしの方や高齢者世帯は徐々に増えてきているので、地域の中でお互いに気にかけてたり声を掛け合ったりしながら安心して生活できることが望ましい。しかし、元々は田畑が多い地域であり、道路の新設や光陽小学校の開校で、店舗が増えたり、新たに住宅を構え住み始めた人も多く、地域のつながりはそれほど深くない

2 活動の目的

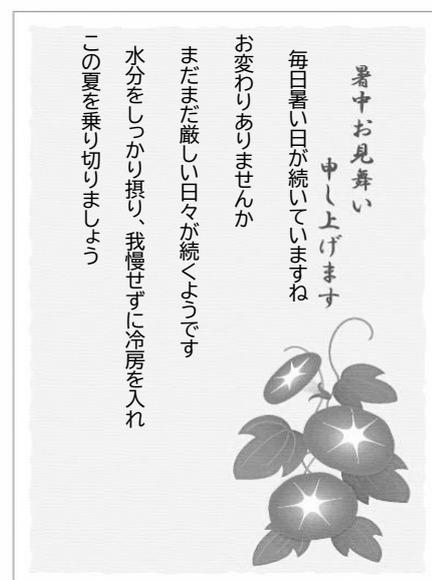
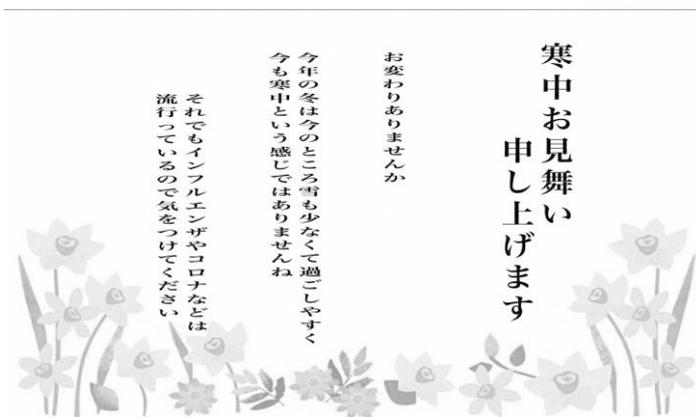
上記のような地域性から一人暮らしや高齢者世帯の人には、隣近所に気軽に相談できる人があまりいないのが現状である。そのような人々にとって民生委員が訪問し話を聞いたり相談に乗ったりという活動は大切になってくる。

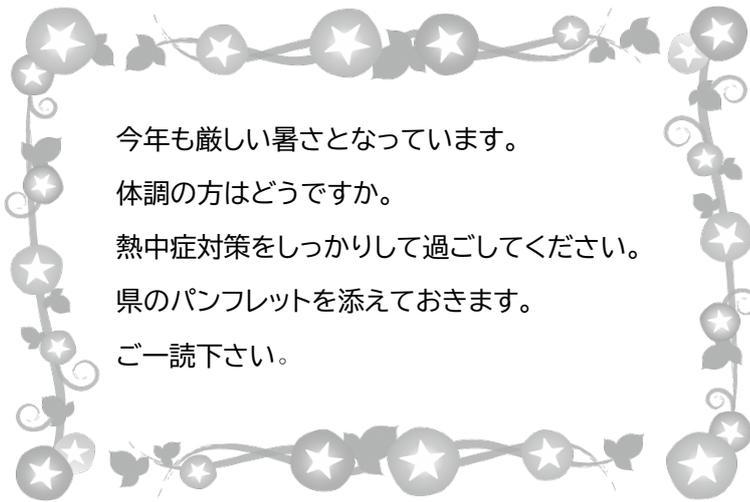
訪問活動や電話訪問は実際に顔を見たり声を聞いたりできるので健康状態や困り事などを直接知ることができる。しかし、お互いが仕事を持っていたり都合がつかずなかなか会えないことも多い。また極端に暑い日・寒い日に玄関まで出てきてもらうことを思うと訪問も躊躇する。

そこで訪問以外にもいろいろな連絡方法を使うことで「見守ってもらえている」という安心感・信頼感を持ってもらいたいと思っている。

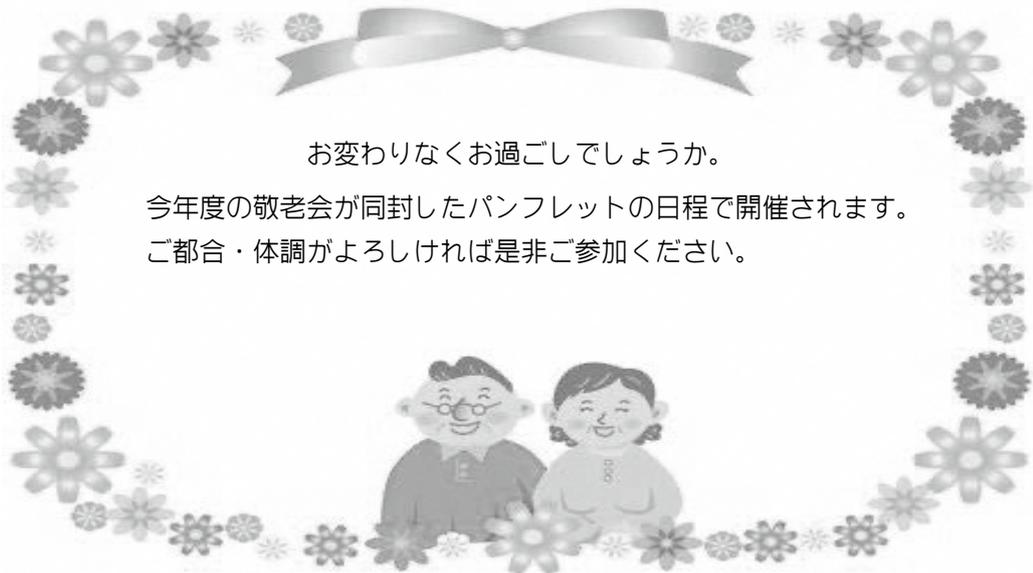
3 活動の内容

訪問以外に季節ごとのお便りや暑中見舞い・寒中見舞いを出す





今年も厳しい暑さとなっています。
体調の方はどうですか。
熱中症対策をしっかりして過ごしてください。
県のパンフレットを添えておきます。
ご一読下さい。



お変わりなくお過ごしでしょうか。
今年度の敬老会が同封したパンフレットの日程で開催されます。
ご都合・体調がよろしければ是非ご参加ください。



4 課題と対応

お便りを届ける活動を取り入れることで、訪問した時には「いつも見守ってもらえているのがわかって嬉しい」と感謝されたり親しく話をしてくださったりするようになってきた。また、信頼してもらえるようになったからか、介護施設利用の相談を受けたり、住宅の緊急通報装置の設定方法について尋ねられたりと実際の生活の中で希望されることを行政機関に橋渡し問題を解決できたこともあった。

しかし、たまに訪問する私たちにはそれぞれの高齢者が日々どのように過ごしているのかはなかなか把握できない。近所の人々の見守りや地域のつながりが助けになるのだが希薄になるばかりで、それぞれがどんどん孤立していているのが現状である。地域住民がお互いつながりを持ち助け合える地域に育てていくことが必要である。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

地域内の「気になる高齢者」が増加してきている

- ・ ひとり暮らし
- ・ 要支援、要介護者
- ・ 高齢者のみの世帯

以上の高齢者の方々が地域の中で近隣住民との交流が少なく、孤立しがちである

(2) 民生委員・児童委員として課題への取り組み方

- ・ 定例会で課題事例等の情報を共有し委員相互が意見交換しながら問題解決に当たっている

(3) 今後取り組んでいく目標

- ・ 地域住民とのネットワークをより強固なものとし、地域の「気になる高齢者」を早期に発見し適切な相談支援に繋ぐ

(4) 連携する機関（重要度順）

- ・ 自治振興会（町内会） ・ 社会福祉協議会（地区社協） ・ 富山市福祉政策課
- ・ 地域包括支援センター ・ 地区センター 等

(5) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

- ・ 各種地域行事に積極的に参加し、地域住民とのネットワークを構築する。
- ・ 「在宅ひとり暮らし高齢者台帳」に登録されている方には高齢福祉推進員を設けて見守り活動をより強固なものとしたい。

《光陽校区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版2026～2028』》

重点2 様々な課題を抱えた人を支える

各種地域団体と連携し、誰もが安心・安全に生活を送れる地域を目指す。

- ① 地域住民と強固なネットワークを作り、「気になる高齢者」を早期発見する。
- ② 「気になる高齢者」を各種地域行事などに積極的に誘い、交流と理解の深化を図る。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
山室校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

重点3 民生委員・児童委員制度を守り発展させていくために

< 現状 >

山室校下は【在宅ひとり暮らし高齢者台帳】の登録者が富山市内最多の308名(R7・5月現在)で、21名の民生委員で見守り活動をしています。

心理学研究において、人間は本能的に「人に喜ばれるとうれしくなる」そうです。見守り対象者から喜ばれて感謝されることにより、委員各自の喜びを引き出すための行事を新規事業として取組みました。さらに個別の研修会や行事・会議への参加に対して手当金の充実に腐心しました。定例会では一方向な会議進行を改め委員一人ひとりが自由に意見を述べて自ら考え行動できる雰囲気づくりにしました。以上のことから委員各自の満足感を高めて、楽しく活動的な組織にしたいと思っています。

< 今取り組んでいること >

従来の【ひまわり通信】は一方向なお知らせ媒体でした。心理学では、人から好かれる法則に「会った回数に比例して親密度が増す」そうです。

そこで、心の繋がりを大切にする取り組みを増やすことで、見守り対象者から感謝・喜びの声が聞くことができたと思います。

- ① 材料費は安価であるが、真心がこもった手作り品【干支の絵馬飾り物】に手紙を添えて手渡しました。大変喜ばれ、毎年恒例の事業となりました。この機に考案・製作チーム【ひまわり通信室】を立ち上げ、委員同士楽しく活動でき、連帯感が増し明るい雰囲気になりました。
- ② 山室校下版『心配ごと相談室』を新設し、案内状に誕生日プレゼントを添えて見守り対象者の誕生日に配布しました。結果、5件の連絡相談を受けました。
- ③ 民生委員児童委員の日、一斉取組みについて
山室民児協のPR活動として3月25日～4月5日(土日は除く)9:00～11:00
13:00～15:00の時間帯に二人1組で、民生委員ベストを着用して山室地区センターに於いて、お出かけ定期券・高齢者ふれあい入浴券の申込み申請書の窓口業務のお手伝いをしながらPR冊子とティッシュペーパーを配布しました。対象者が高齢者なので効率よくPR活動ができ、500名余りの連絡活動ができました。

<今後の取組み>

現状の取組み案が最善だと考えています。

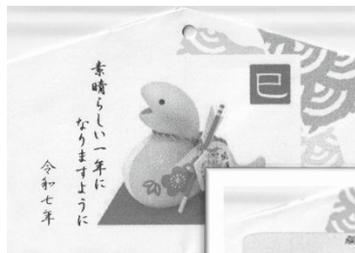
事業の継続により、民生委員一人ひとりの意識が常に『人を助けてあげたい』『人をもっと喜ばせてあげたい』というような心持ちになっていますので、どんな仕事を任せられてもよい結果が得られると思います。

今年の改選で6名の民生委員が新規就任することになりました。

この雰囲気のまま継続して、コミュニケーションをしっかりと取り、より良い雰囲気づくりに尽力したいと思います。

山室民児協の委員の皆様の笑顔が人を癒し、幸せにしてくれることを信じてこれからも励んでいきたいと思っています。

干支の絵馬飾り物



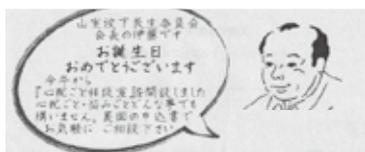
(表)



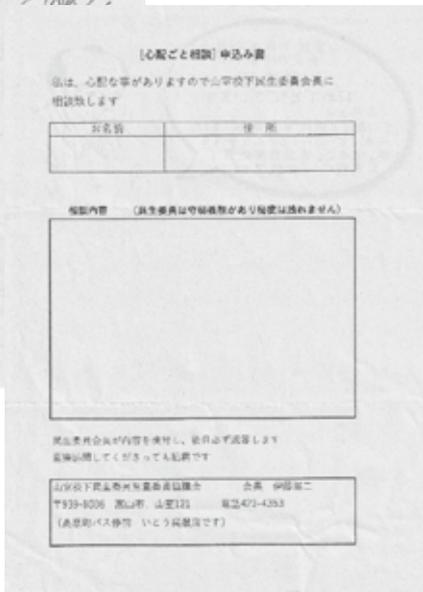
(裏)



山室版[心配ごと相談室] 案内状



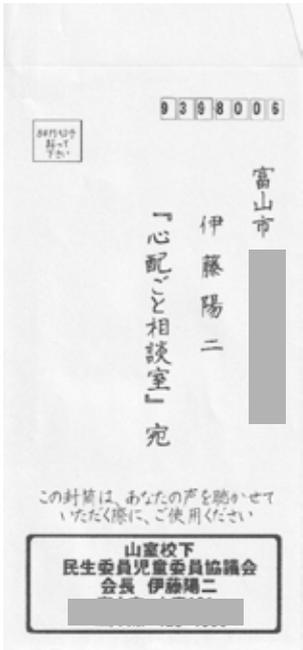
(表)



(裏)



誕生日プレゼント



(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

コロナ禍が始まって約 5 年、不要不急の活動自粛により人と人との繋がりの減少がもたらした影響はかなり深刻です。孤独・孤立を解消して安心して過ごせる『居場所づくり』が急務であります。

(2) 山室民児協としての課題

山室校下には 2 か所の市営住宅があり『ひとり暮らし高齢者台帳』の登録者は 111 名で、僅か 2 名の委員が担当しています。見守り活動をサポートするサロンを開催したいと思います。

(3) 今後取り組んでいく目標

住民（特に高齢者・子ども）がそれぞれの興味や関心に合わせたレクリエーション・おしゃべり・食事会など、楽しいひと時を過ごせる交流の場として、山室民児協主催の『ふれあいいいききサロン』を開催したい。

(4) 連携する組織

高原町町内会・中市団地町内会・各町内福祉推進委員・自治振興会

(5) 実施手順

- ① 山室民児協内でサロンの必要性・方向性を協議し、具体的に検討する『サロン実行チーム』を立ち上げる。
- ② 町内会と場所・時間・内容等の計画案をつくる。
- ③ 2 年以内に開催したい。

《山室校下民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

- ① 地域の孤独・孤立を防ぐため、安心できる居場所づくりを推進。
- ② 高齢者見守り支援として、サロン活動を立ち上げ、委員の負担軽減を図る。
- ③ 多世代が交流できる楽しい場を創出し、地域連携を強化して継続的な活動へ。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
山室中部校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例項目

事例1 地域のつながり、地域力を高めるために

<ポイント>

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちをめざして

事例テーマ

住民どうしが支え合える仕組みづくりへの協力

<現状と課題>

山室中部民児協では、ひとり暮らし高齢者のつながりの機会として年5回の「山室中部いきいきクラブ」昼食会を実施しており、参加者からは好評を得ています。また、ひとり暮らし高齢者台帳に登録していなかったり見守り対象となっていない高齢者を対象とした「積極的」訪問活動として、毎年11月にシクラメン花鉢をプレゼントして、それぞれが抱える問題の現状を把握したり、新たな繋がりをもつ機会としています。

しかしながら山室中部校下全体をながめてみると、高齢者は3,073人(令和7年4月)、そのうち後期高齢者が約1,800人(令和7年2月)であり、それらの人数に比べると、昼食会の参加者は1回あたり約30名、シクラメン花鉢のプレゼントが約180名と、全体の高齢者の数に比してまだ少ないのが実情です。

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるためには、住民どうしの繋がりや支え合いが重要であり必要であることは言うまでもありません。山室中部校下では令和7年度中に自主防災団体をすべての町内で組織する予定です。自然災害等の発生時に、地域での防災活動や避難行動が計画・想定したとおり実施できるかどうかは不確かです。そんなとき、避難に障害を抱える人にとって近所の「顔見知り」どうしの助け合いが何よりも大切になると思われます。そのためにも、さらに住民どうしの繋がりや支え合いの機会を増やす努力が必要であると思われます。

<今後の取り組みについて>

重要なのは日々の訪問活動や、上記の昼食会・花鉢プレゼント、また地域の各種団体と協力しておこなっている諸活動(例えば、シルバー交通安全教室、ふるさと講座、ふれあい敬老会、赤ちゃん教室、文化祭、公民館まつり、等々)をさらに充実させ、住民同士のつながりが深まるように協力していくことです。現在、一部の町内会で民生委員の活動を知ってもらうためのPR活動をおこなっていますが、山室中部校下のすべての町内会で同様のPR活動をおこない、できれば若い世代にも地域福祉に関心をもってもらい、いずれは彼らに地域福祉の担い手にもなってもらえるよう働きかけていければと願っています。

今後の構想としては、いきいき昼食会のような校下全体の活動だけでなく、社会

福祉協議会の協力を得ながら町内会で実施できる「ご近所カフェ」のようなサロン活動を考えています。最初は山室中部民児協が中心となって、それぞれの町内会で持ち回りのかたちで実施していきませんが、将来的には町内会に運営をまかせ、それぞれの町内会で定期的を開催してもらえようになればと期待しています。

次に、住民の方々の困りごとについてですが、現在は個々の民生委員・児童委員が地域包括支援センターと個別に連絡を取り合っていますが、これからは地域包括支援センターの方や社会福祉協議会の方を年に2～3回ほど定例会に参加していただき、支援の相談や助言をいただくとともに、それらの方々と協働できる活動がないか検討させてもらいたい。

民生委員・児童委員だけでなく、社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治振興会、町内会など、さまざまな方々との連携を強化しながら、住民同士が支え合える仕組みづくりの協力をしていきます。

(以下、写真)



いきいきクラブ昼食会（準備・調理）



いきいきクラブ昼食会（会食）



シクラメン花鉢を運ぶ（民生委員）



シクラメンをプレゼントされた高齢者

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

日々の訪問活動や各種団体と協力する行事で地域住民とのつながりを深めているが、支え合える仕組みとしてはまだ十分とは思われない。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- ・ 日々の訪問活動や各種団体と協力しておこなっている諸活動をさらに充実させ、住民同士のつながりが深まるように協力していく。
- ・ 地域住民への積極的なPR活動をおこない、地域福祉に関心をもってもらう。
- ・ 定例会に地域包括支援センターや校下の社会福祉協議会の方が参加してもらえるよう、協力を要請する。
- ・ 校下の社会福祉協議会の協力を得ながら、各町内で実施できる「ご近所カフェ」のようなサロン活動を定期的実施する。

(3) 今後、取り組んでいく目標

現在の活動を継続充実させ、さらに発展できる活動に取り組む。

(4) 連携する機関（重要度順）

- ・ 校下社会福祉協議会
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 自治振興会、町内会、各種関連団体、および地区センター
- ・ 警察および消防

(5) 実施期間等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

現行の活動の継続と充実が大切。

《山室中部校下民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

重点 1 地域のつながり、地域の力を高めるために

- ・ 日々の訪問活動や各種団体と協力して地域住民が集える行事を充実させる。
- ・ 民生委員児童委員のPR活動をおこない、地域福祉に関心をもってもらう。
- ・ 地域包括支援センターや校下の社会福祉協議会の方々を、年2～3回定例会に招き、支援の相談と助言をいただき、協働できる活動を模索する。
- ・ 各町内でおこなう「ご近所カフェ」活動を実施し、繋がりの機会を増やす。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
太田校下民生委員児童委員会協議会

(様式 1)

事例項目

事例 1 地域のつながり、地域力を高めるために

<ポイント> 安心して住み続ける地域社会作りを目指して

民生委員・児童委員になって早6年目。委員になる前は家と職場との往復で、町内近隣の方々との交流はほとんどしていませんでしたが、民生委員になったことから地域の皆さん宅を訪ねる機会が増えました。お1人お1人の暮らしの様子を知ることにもなり、また、地域の皆さんから声をかけてもらえるようになりました。徐々に担当地域の一員になったことがうれしく、自分のできる見守りや地域におけるつなぎ役として先輩の民生委員の方々と共に取り組んでいます。

民生委員になる以前は、主任児童委員を担当していました。地域全体で心豊かなこどもを育てる組織づくりが進められ、今も続いています。子育て中の保護者や子ども同士の交流の場として地区センターを会場に毎月1回行われている「赤ちゃん教室・乳幼児と親の会サークル」に委員として関わりました。参加者親子の様子を見ていて、どんどん成長してく幼子の姿に感動しました。一方、親の中には赤ちゃんや乳幼児に接した経験がない人たちがいます。頭では理解していても、自分の思い通りにならないことも多く、不安な日々を送っています。未経験の育児に戸惑い、単独での育児に疲れているのです。孤独な子育てにならないように誰もが参加できる地域組織の子育て支援、環境づくり活動が必要です。

私が取り組んだ活動事例をいくつかあげさせていただきます。

民生委員・児童委員になってから認知症の診断が下りていない方に縁がありました。庭仕事が好きだと話していた方です。しかし次第に買い物などの外出もしたくなくなり、入浴の回数も減り、庭に出たくない、人にも会いたくないと言われるようになりました。家族の方も状況がつかめず先の心配が膨らんでおりました。そこで、認知症について書かれたパンフレットを家族の方に届けてみたところ、生活支援のサービスを活用されて行かれました。変化を受け入れていくときは、当事者も家族の方も多くの時間を要し、とりわけ家族の方々の温かい見守りが大切でした。認知症総合支援早期対応に向けた支援体制の構築、医療や地域の支援機関をつないだ事例でした。

「お金に困って生活が立ちいけなくなった」と相談の電話が入りました。民生委員になっての講習会資料を紐解いて、早速に市役所と社会福祉協議会へ問い合わせしました。その日のうちに相談者の連絡先の電話番号と相談担当者名を伝えることが出来ました。申請

交付書類等数回確認を取り、何度か訪問して支援につなげるまで2か月程の時間を要しました。その後、生活は軌道に乗った様子でした。

お一人暮らしの方を訪問すると「あまり心配しないで大丈夫」「ありがとう」等と最近の様子や思いを話されます。声を掛け合って安否の確認をしたと自分に納得させ帰っています。また、家族の方から頼まれ、隣に住む方が「一人暮らしの方」を見守ってくれています。家の明かり・台所やお風呂の水の音で安否確認をしていると話されました。地域力の存在にうれしくなります。

「町内行事の清掃は、高齢のため活動できない」と相談を受けました。早速様子確かめに班長さん宅へ行くと「班長さんが担当個所の責任を取る」というルールが町内会で了解済みになっていることが分かりました。相談された方に伝えて一件落着となりました。

私も含めて地区では高齢者が大半を占めています。一人暮らしの心細さ・買い物難民・自治会や町内会のルール・ゴミ出し当番や役員の免責年齢問題・班の隣近所付き合い方・行事活動を通して住民相互の交流など生活全般の問題点が地区の方からの話題となって耳に入ってきます。おかげで地域の無関心ではられません。

地域包括支援センターから高齢者の介護状況・入所状況等の連絡を受けます。情報を互いに交わして住民の方の様子を確実なものとしています。これからも抱え込まず、地域の方やさまざまな関係者に相談し、協力を得ながら共に取り組むことで、地域がより住みやすくなり、地域での孤立をなくして住民の安全・安心なくらしにつなげるために大切なことです。これまで以上に地域包括支援センターの方々と定期的に顔を合わす機会などを活用し、関係性を深めていく必要があります。また、地域包括支援センター以外の幅広い機関や関係者との協力関係を深めていくことも益々求められます。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

- 高齢化による一人暮らしの増加と困難事例の増加。
- 子育て中の保護者の孤立感と育児負担感。
- 地域のボランティア人材の不足や高齢化の課題。
- 災害時の備え、冬場の降雪時対応体制の改善。
- 住民の交流不足（コロナ感染症以来）による孤立感。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

- 高齢者を定期的に訪問して安否確認する。
- 認知症の早期対応支援体制を構築。
- 子育て支援の場を提供し、保護者の相談窓口を確保。
- 経済的困難にある方への迅速な生活支援への橋渡し。

(3) 今後、取り組んでいく目標

- 高齢者の孤立解消と地域での見守り強化。
- 子育て支援の充実による保護者の安心感向上。
- 住民相互交流の場の創出で地域活性化。
- 包括支援センターとの協力関係を深め、情報共有の頻度を増加。

(4) 連携する機関（重要度順）

地域包括支援センター：高齢者介護や健康状況の把握。

- 社会福祉協議会：緊急対応時の協力体制。
- 市役所担当課：生活保護や支援金申請の手続き。
- 子育て支援センター：育児支援環境の整備。
- 医療機関：認知症支援など。

(5) 実施期間等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

進め方：

1. 定期的な住民訪問を行い、生活状況を把握。
2. 地域の課題ごとに支援が必要な方をマッチング。
3. 関係機関と連絡を取り、支援内容を調整。
4. 地域住民からのフィードバックを受け、活動改善を繰り返す。

手順：

- 問題を発見 → 機関へ情報提供 → 必要支援の計画 → 実施 → 評価と改善。

課題：

- 自発的な住民参加の促進。
- 支援の公平性と透明性の確保。
- 時間的・人的資源の不足。

《太田校下民生委員児童委員会協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

1. 地域課題の解決に向け、住民参加や連携の推進を進めます。
2. 情報共有と迅速な支援体制の構築で孤立感を防ぎます。
3. 子育て環境や高齢者支援活動をさらに拡充します。
4. 機関や住民との関係を深め、地域全体で支える仕組みを強化します。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
蜷川校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

【事例1】

地域のつながり、地域力を高めるために

テーマ 自治会・町内会活動と民生委員児童委員活動との連携強化

(1) 現状

少子高齢化がますます進行する状況下において、民生委員児童委員の重要性は一層高まっている。ただ、残念ながら地域における民生委員児童委員の認知度は高いとは言えない。

(2) 活動の目的

上記の現状を打破し、校下での福祉活動の現状を広く知ってもらい、理解を得て民生委員児童委員の活動への地域を挙げての協力を取り付けることを目的とする。

(3) 活動内容

- ① ひとり暮らし高齢者や要支援者への見守り活動・・・毎月の「交通安全いきいき情報」をコピーし、月に一度の訪問時に持参する。近況を確認すると同時に困りごと等を聞き出す。健康状態が悪い場合は、蜷川包括支援センターに連絡し対応してもらう。
- ② 玄関に「緊急連絡票」を設置してもらい、万一の場合に備える。
- ③ 社会福祉協議会と連携し、各町内の福祉推進員との情報交換会を開催・・・各町内における福祉活動の現状や問題点を出し合い、活動の改善に生かす。
- ④ 自治振興会、社会福祉協議会、包括支援センター、いきいきクラブ、ふるさとづくり推進協議会、長寿会連合会、日本赤十字奉仕団等の活動に積極的に参加し、各活動を通じて民生委員児童委員ひとりひとりを覚えてもらうことで校下における存在感を高める。

(4) 活動の成果

- ① 見守り活動として支えあいネットワークがあげられる。各委員の積極的な勧誘により、利用者が5割ほど増加した。福祉推進員とも協力して、更なる増加が期待される。
- ② これまで各町内から選出される福祉推進員は1年限りの場合が多かった。福祉推進員だけでなく、すべての町内会長を集めての説明会でその重要性を説明し、数年続けられる専門職として選出してもらうよう要望した。そのため多くの町内で任期が数年の福祉推進員が増加し、民生委員児童委員と協力しての見守り活動は活発となっている。

③ 民生委員児童委員が必ず参加している地域活動と回数（詳細）

- ・ 社会福祉協議会のセミナー 年5回（「地域と健康の地域づくり講座」）
- ・ いきいきクラブ 年24回（原則として第2、4金曜日開催。ランチ無料）
- ・ ふれあい子ども食堂 年12回（子ども無料。大人は300円 200人ほど参加）
- ・ 上記のランチへの食生活改善推進員及びボランティアの皆さん方の活躍には感謝の言葉しかありません。
- ・ ケアネット活動への協力（「ご近所助け合い活動」への積極的協力）
- ・ 包括支援センターふれあい活動（じゃがいも、サツマイモの定植と掘り出し）年4回
- ・ 日赤奉仕団訪問活動 年2回（春と秋にトイレトペーパーを持参し様子を確認する）
- ・ ふれあい文化祭 年1回
- ・ 各町内におけるサロン活動 22町内の内20町内で開催（コロナ過で一時期減少したが盛り返してきた。ただ、60代の参加が少ない。）
- ・ 各町内会の独自活動 適宜参加

(5) 課題と改善点

- ① 毎月1回の訪問時に手渡す「交通安全いきいき情報」は、会話のきっかけとして役立っている。様々な事情で支援を必要とされる家庭に対しては、市社協と連携して対応している。時には、包括支援センターとの三者で訪問する。必要に応じて、デーサービス施設担当者にも参加してもらう。
- ② 包括支援センターの協力を得て、包括支援センターで民生委員児童委員、包括支援センター担当者と蜷川校下のデーサービス施設担当者が一堂に集まって事例ごとに対策を検討する「蜷川 Learning」を毎年開催している。
- ③ 福祉推進員は各町内に1名以上選出されている。年2回研修会を開催し、福祉への意欲向上を図っているが、勤めている方が多いので揃わないことが多々ある。ただ、町内会長への働きかけにより福祉推進員への理解が進み、民生委員児童委員とともに協力しての活動が強化されてきた。町内に2名以上任命される事案も増加した。

(6) 添付資料（写真と題名）

携帯用緊急連絡カード表・裏(ピンク紙)

各家庭の玄関に設置する「緊急連絡票」と異なり、各個人が外出時に携帯する「緊急連絡カード」です。

いきいきクラブなど地域の行事に参加するときに持参してもらう。

【緊急連絡カード】		緊急連絡先	
<携帯用>		もしものときは、ここへ連絡して下さい。	
私は		〒	() -
氏名	性別 男・女	氏名	
住所	富山市	住所	
〒	-	続柄	
血液型	型 (RH + -)	〒	() -
生年月日	明治 大正 昭和 年 月 日	氏名	
持病		住所	
かかりつけの医師		続柄	
医院・病院名	〒		

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

令和6年3月末における蜷川校下の高齢化率は、富山市全体(30.27%)を下回る26.12%であった。ただ町内別に見ると20%台の町内もあれば40%を超える町内も存在する。35%以上の町内は多数見受けられる。

そのため町内会活動の維持に苦勞する事案がある。特に福祉活動の担い手の不足が深刻化している。

(2) 蜷川校下民生委員児童委員協議会としての取り組み

定年退職後も働く60代、70代が増加し、平日の町内活動に参加できる住民が少ない現状から、福祉関係組織が密接に連携し助け合って活動する必要がある。

(3) 今後取り組んでいく方策

① 支えあいネットワーク事業の充実

ケアネット活動の利用者数が増加しているとはいえ、先進地域と比べると十分とは言えない。自宅訪問を通じて加入を積極的に勧める。民生委員児童委員と福祉推進員以外の協力者をいかにして増やすかが問題となる。

② 福祉活動関係者の密接な連携

福祉活動に関与する組織が一同に集まり、活動内容を理解し、連携することで互いに協力する体制を作り上げる。

- ・ 福祉推進員研修会
- ・ 支えあいネットワーク事業関係者会議

③ 包括支援センターとの緊密な連携

- ・ 民児協の定例会に参加してもらい、方針を理解し協力してもらう。
- ・ 包括支援センターで民児委員、校下デーサービス関係者、包括支援センター職員が定期的に集まり、個別の情報を交換したり勉強会を開催したりする。
- ・ 認知症カフェやにながわファームでの様々な行事に参加する。

④ 蜷川校下の高齢者ひとりひとりに配布している「緊急連絡表」の更新(3年に一度)と新たな対象者への配布。

⑤ いきいきクラブや各町内で実施しているサロン活動の充実。

(4) その他校下各種機関との連携強化

- ① 蜷川校下社会福祉協議会 ② 各町内会 及び校下各団体 ③ 南福祉センター
- ④ 富山南警察署、富山消防署南部出張所

《蜷川校下民生委員児童委員会協議会『活動強化方策地域版2026~2028』》

- ① 高齢化の進行と福祉活動の担い手不足対策として、住民支援ネットワーク強化や関係機関と密接な連携を進めています。
- ② ケアネット活動やサロン活動の拡充も推進します。
- ③ 緊急連絡表の更新やサロン活動を活性化し、地域全体の包括的な支援を目指します。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
新保校区民生委員児童委員協議会

(様式1)

事項テーマ

富山市立新保小学校 150 周年記念行事に基づく地域活動

1. 地区の現状

富山市新保地区は、都市部の発展に伴い、住民の高齢化と年少者の減少が進行している一方、小中高の学校と地域住民が繋がり、地域学習や共同の活動が活発になっていきます。新保小学校は地域社会との接点となり、学校が地域にとって中心的な存在であり維持されています。

2. 活動のきっかけ

新保小学校 150 周年を迎えるにあたり、地域全体がともに繋がりを強化し、さらに学校の存在を見直す機会として記念行事を実施することになりました。小学校の参加者だけでなく、地域住民、後援者や OB も参加し共に運営する型の活動が提案されました。

3. 具体的な取り組み

1. 記念イベント

- ・学校の歴史を総括する記念講演会や、地域の成果を語るパネルディスカッションを実施。
- ・参加者を小学生、親、地域住民に定め、小学校を起点とする共同活動とした。

2. 小学生主催のインターンシップ活動

- ・小学生自らが地域に関する資料を調査し、組織した展示会や説明会を開催。
- ・学校内にとどまらず、地域住民が参加できる場を設けた。

3. 地域住民との共同活動

- ・基金集めや実行委員会の構築、園芸の大人と小学生の共同プロジェクトなど、地域と学校が一体となる構造を構築した。

4. 記念ブックの発行

- ・歴史と現状を総括した記念ブックを製作し、小学生や地域住民に配布。

富山市立新保小学校の創校 150 周年記念式典では、「ANA Team HND Orchestra」の皆様による記念コンサートが開催されました。コンサートでは、「名探偵コナンのテーマ」や「情熱大陸」など、子供たちに馴染みのある曲が演奏され、手拍子や掛け声で大いに盛り上がりました。また、全員で練習した「群青」の合唱では、会場が一体となった素晴らしい演奏と歌声が響き渡りました。アンコールの「やってみよう！」では、会場がライブ会場のような熱気に包まれました。さらに、前日にはオーケストラの皆様をお招きし、ワークショップが行われました。子供たちはパイロットやキャビンアテンダントの仕事について学び、興味深く質問をしていました。その後、翌日のコンサートで共に歌う「群青」の練習も行われ、子供たちは期待に胸を膨らませていました。

(様式 2)

活動強化方策策定に向けて

(1) 地域で見えてきた現状と課題

新保校区自治振興会は校区を5つのブロックに分けて各種活動を行なっているが、地理的に南北に細長く、市街地に近い北部の1ブロックが新興住宅区域となっていて全校区の67%の住民が集中し、校区で平均すれば富山市内では出生率が高く、児童数増加が続き、高齢化率が低いとされているが、従来の農村区域である南部の2～4ブロックでは少子高齢化が進んでいる（高齢化率40%超の町内も有る）。

(2) 地区民児協として課題への取り組み方

一人暮らし高齢者、夫婦二人暮らし高齢者世帯への訪問。
高齢者の健康増進活動や親子ふれあい活動などへ校区関係団体と協働参画。

(3) 今後、取り組んでいく目標

少子高齢化に対応した福祉活動の推進を図る。
地域の子供たちを守り健全育成に努める。

(4) 連携する機関(重要度順)

新保校区社会福祉協議会、新保校区自治振興会、新保地区センター、町内会、
新保・熊野地域包括支援センター、南保健福祉センター。

(5) 実施時期等(進め方・手順等・今後の取り組み課題等)

友愛訪問…年4回(通常訪問とは別に、7、9、12、3月)、高齢者世帯等への見舞品持参。
ふれあいサロン…年6回(5～11月)、健康体操や予防食試食を通し健康意識を高める。
福寿の集い…年1回(7月)、子供たちとのふれあいで後期高齢者の長寿をお祝いする。
親子クリスマス会…年1回(12月)、親子(幼児～児童)のふれあい活動。

《新保校区民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

重点1 地域のつながり、地域の力を高める

誰もが笑顔で住みやすい地域の絆づくりを進める。

①高齢者世帯、障害者、母子家庭等への訪問を継続して行ない、相互コミュニケーションを深めて状況把握に努める。

②高齢者や子育て世帯の地域交流の場を校区関係団体と協働して設ける。

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
熊野校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

事例1 地域のつながり、地域力を高めるために

1. 社会福祉協議会の行事に参画

(1) 民生委員児童委員は、全員が社会福祉協議会理事であり、校下行事の推進役として活動しています。(高齢者一人暮らし全体会食会、福祉講演会、75歳以上高齢者お祝い饅頭配布、三世代交流卓球バレー、シルバーベアークッキング、熊野まつりに活動掲示板展示、くまの福祉だより毎月発行、研修会他)

参加いただいた人たちの笑顔が、活動していてうれしいことです。

(2) 校下を6つに分けたブロック毎の活動では、社会福祉協議会のブロック長と各町内担当の福祉推進員、その地区担当の民生委員児童委員が協力し合い、高齢者一人暮らし会食会や配食会(年3回)を実施するとともに、福祉推進員定例会(2か月毎)で各町内の問題点等情報交換しています。

2. 各家庭に「命のバトン」のPRと配置

令和6年、「命のバトン」の各家庭への配置率を高めるため、校下全家庭にPR文書を配布し、申込者に対し「命のバトン」作成方法の説明と「命のバトン」が配置されたことの確認を行いました。「命のバトン」PR文書の校下全家庭配布と申込書の集約は、町内会長協議会を通じ各町内会長にお願いしました。申込者に対しての「命のバトン」作成方法の説明と「命のバトン」が配置されたことの確認は、民生委員児童委員が担当しました。今後は、日々の見守り活動時、「命のバトン」の周知拡大を図っていきます。

3. 子どもたちとのつながり

(1) 子どもたちの見守り活動

一部の委員は、日々の活動として、児童下校時、交差点にて見守り活動を実施しています。また、民生委員児童委員活動強化週間のときは、民生委員児童委員協議会の活動として、交差点で見守り活動(2回)しています。

(2) 令和5年、熊野小学校創校150周年記念式典で、主任児童委員が熊野小学校創校100周年のときに踊って覚えていた熊野音頭が復活し、披露されました。

主任児童委員の活躍で、以後、熊野小学校運動会で熊野音頭が踊られています。

(3) 令和7年、学童保育「熊野ちびっ子館」の指導員が欠員となった時、一部の委員が応援に加わりました。現在も応援員としてかかわっています。学童保育は、子どもたちが集団で集う居場所として、大きな意味があると実感しています。

(4) 令和6年より、くまのわくわく食堂(年3回)がスタートしました。子どもからお年寄りまで誰が来ても良い食堂です。手作りの食事は、限定100食ですが、みんなの居場所になるよう楽しく開催していきたいです。

事例2 「さまざまな課題を抱えた人びとをささえるために」の活動報告

1. 日々の見守り活動

(1) 「地域で末永く自分らしく生活すること」に関わらせていただき、笑顔に巡り合えるのは、本当にうれしいことです。

- ① 歩くとき膝が悪くよちよち歩きだけど、自転車に乗り日常生活、障害の息子と一緒に暮らすお母さん。
- ② 普段「もう嫌になった」とつぶやきながらも、行事に参加すると「楽しそうな」一人暮らしのお爺ちゃん。
- ③ 「家の中のものが違うものに置き換わった、時々ゴンゴン音がする」と、夫も妻も妄想を抱えながら、家の中はきちんと整理され生活している高齢者夫婦。
- ④ 夏から秋になると隣の庭木と草がぼうぼうになり、気になって不安になる一人暮らしのお婆ちゃん。
- ⑤ いつも自転車に乗り元気に生活している一人暮らしのお婆ちゃん、時々自動車で送迎しますが、ある日、ちょっと歩いただけで息がゼイゼイしていることに気づき、病院に行ったところ心臓病であることが分かり、手術して元気になったお婆ちゃん。良かったです！
- ⑥ 毎日、朝ホームヘルパーさんが来てデイサービスも受けているが、いつも床屋まで長い距離を歩いていきよく転ぶお爺ちゃん。よく助けられています。要注意。
- ⑦ 夜中にパジャマを着た来訪者あり。近所の認知症のお母さんでした。家に連れて行くと夫は寝ておられました。玄関の鍵を嚴重にしようと打ち合わせ。
- ⑧ 以前、福祉推進員として元気に活動しておられた息子と二人暮らしのお婆ちゃん、最近、家の庭でボヤ騒ぎを2回発生、少し判断力が弱くなってきました。
- ⑨ お婆ちゃんと娘二人暮らしのゴミ屋敷のご家庭、民生委員児童委員と地域包括支援センターが力を合わせゴミ掃除しました。
- ⑩ 高齢夫婦で、妻は体が弱く、膝の悪い夫が妻のお世話をしておられたご家庭。冬に訪問すると家までの道路が雪で覆われたままのため、自動車が通れるよう降雪のたびに除雪を実施。電話がかかってきて、「ありがとう」と言われた言葉が今も残る。
- ⑪ その他、高齢で除雪ができないご家庭、自動車送迎が必要なご家庭、・・・

(2) 元民生委員児童委員に脱帽

がんを患って余命を宣告されていた元民生委員児童委員が、以前から見守りしていたご家庭の除雪作業を行っていたことが分かり、除雪はこちらで行うからと安心してもらいました。ずっと前から人工透析のため病院へタクシー通いしていたご家庭の見守りをしておられました。自分の命のぎりぎりまで福祉活動に尽力された我らの先輩、誠にありがとうございました。

2. 災害ボランティアで氷見市へ（個人活動）

氷見市の災害ボランティアに参加したとき、解体予定の家に民生委員児童委員の表示札が掲示されていました。民生委員児童委員も被災し大変だったことを実感しました。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

[地域で見えてきた現状と課題]

熊野校下の人口を富山市統計から調べると、少子高齢化が進み町内会別には65歳以上高齢比率の高い町内が多くなってきました。60%を超える町内会は、自治会活動が難しくなっています。高齢になっても、できるだけフレイルな生活にならないよう気に掛けることは大事です。また、核家族化、少子化が進み、子どもの元気を見守ることは大事です。

熊野校下の人口

熊野校下の高齢化率

項目	熊野校下の人口		熊野校下の高齢化率	
	令和7年 3月末		65歳以上の 高齢化率	令和7年 3月末
0～12歳の人口	512人		60.0%以上	1町内
13～18歳の人口	437人		50.0～59.9%	4町内
19～65歳の人口	3,554人		40.0～49.9%	12町内
65歳以上の人口	2,284人		35.0～39.9%	7町内
合計	6,787人		34.9%以下	9町内
65歳以上高齢化率	33.7%		合計	33町内

民生委員・児童委員は、一人で複数町内を担当しており、自分の町内以外の情報がタイムリーにつかみにくい状況があります。地域の人たちとの連携は大事です。

☆課題：閉じこもりにならない生活、見守り協力体制

(1) 地区民児協として課題への取り組み方

民生委員児童委員協議会定例会、社会福祉協議会理事会・研修会、各ブロック福祉推進員定例会で、問題点を協議し取り組む。

(2) 今後取り組んでいく目標

1. 地域の見守り活動

- ・誠実にコツコツと見守り活動実践しよう
- ・地域の人が孤立しないよう、校下行事等にお誘いしよう
- ・町内会と連携し問題の早期発見と早期対処に努めよう
- ・「命のバトン」をPRし配置の拡大を図ろう

2. 地域サロンへの参画

- ・居場所づくりの充実に取り組もう

3. 災害時を想定した見守り体制整備

- ・災害時慌てないための取り組みを策定しよう

4. 民生委員児童委員の研修

- ・地域の情報収集や勉強会をしよう

(3) 連携する機関（重要度順）

1. 社会福祉協議会ブロック長、福祉推進員
2. 町内会
3. 新保熊野地域包括支援センター、南保健福祉センター
4. 熊野地区センター、校下各団体
5. くまのこども園、熊野小学校、熊野ちびっ子館、興南中学校
6. 富山南警察署（富南交番）、富山消防署南部出張所

(4) 実施時期等（進め方・手順等・今後の取り組み課題等）

日々の見守り活動で実践し、方策は民生委員児童委員協議会定例会で決定。

《熊野校下民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版 2026～2028』》

(1) 少子高齢化が進む地域で、孤立防止と災害時の見守り体制を強化

(2) 定例会や研修を通じて、地域連携と情報共有を深める

「一隅を照らす」活動事例

南地区ブロック
月岡校下民生委員児童委員協議会

(様式1)

重点1 能登半島地震における地域住民アンケート調査

1. 月岡地域の概要

富山市の南部に位置するのどかな農村田園です。東に立山連峰、南に飛越国境の山々を望む自然豊かな地域です。月岡郷土史によると急速に姿を変えた経緯は、地元の活性化の起爆剤として住宅団地の誘致が高まり、昭和57年「月岡グリーントウン」と呼ばれる新興住宅地が誕生したことです。保育所・幼稚園・小学校・中学校が揃った恵まれた教育環境の中、医療機関、福祉施設も整っています。移住者と地元住民の関係は良好ですが、人口減少と少子高齢化が市平均を上回る勢いで進んでいる地域です。

2. 月岡校下人口状況（令和5年8月現在）

総人口：6,301人／世帯数：2,692世帯／一人暮らし高齢者：360人位
高齢者（65歳以上）：2,507人（約40％）／75歳以上：1,352人（約20％）

3. 能登半島地震発生時の地域住民のアンケート調査結果

主な活動実施内容	地区の状況把握、要配慮者への現状確認など
避難状況	避難した(2%)
震災時の 他者からの声掛け	親族(25%)、近隣住民(10%)、民生委員(16%)
避難しなかった理由	避難場所を知らなかった(3%) 避難したくてもできなかった(1%) 避難する必要がないと思った(96%)

○ 地震は大きな揺れだったが、思ったより被害もなく、元旦の夕方でもあり「家族団らん」中で飲酒状態の方も多く、避難の必要はないと考えるご家庭がほとんどであったように思われる。



住民の安否確認

4. 地域住民が震災時に感じたこと・困ったことの声

- ・ 避難に必要な水や食料品を準備していなかった。
- ・ 避難場所がどこか、安全な避難場所かどうか等の情報がなかった。
- ・ 食器棚、タンスが倒れないか心配した。突っ張り棒などで対処しようと思った。
- ・ 震災発生時にすぐに外に出たが、近所の人誰も出ておらず不思議だった。
- ・ 障がいのある方やひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦の世帯では、避難場所、避難方法を事前に考えておかなければならない。

- ・避難はしなかったが、市販の避難袋を以前購入して、準備していたので安心だった。
- ・地震が発生したときは、心細いし怖くて体が震えて止まらなかった。不安なところに近所の方や民生委員の方が来て、声掛けしてもらい安心できた。
- ・近くに、親族がいてくれて安心だった。
- ・今回以上の地震が起こった場合、一人で避難できない精神状態かもしれないので、声掛けしてもらいたい。
- ・避難場所である小学校に防災用品が殆どなかった。



震災後の住民への聞き取り訪問

5. 今回の地震で見えてきた現状と課題

- ・自然災害から住民を守るための自治振興会長と町内会長との連絡網はできたところだが、各町内会での連絡網が作成されていない。
- ・月岡校下としての「自主防災組織」が設定されていない。
- ・月岡校下社会福祉協議会の委員が、災害時の各自の役割を理解していない。



アンケート結果による意見交換



震災後緊急定例会

6. 今回の地震で反省する点

- ・民生委員としての認識が薄く職場が気になり会社に出向いた。
- ・自宅が気になり、要配慮者の方に対する活動ができなかった。
- ・身内のことへの気配りで委員としての活動が思いつかなかった。
- ・正月のため家族が集まっており、安心感で気が緩んだ。
- ・委員同士が安否確認をLINEなどで報告し合わなかった。

7. 今後の取り組み方

- ・本人や家族の身に被害がない場合は、民生委員として町内会長と連携し「ひとり暮らし高齢者」の安否確認活動を行う。
- ・委員同士が安否確認をLINEで報告しあって連携を図る。
- ・災害に備える民生委員活動10か条の基本的な考え方で行動し、地域（自治振興会）との情報を密にするため、情報連絡網を推進する。
- ・月岡住民に、台風や大雨など地震以外にも大きな災害になることを理解してもらう。
- ・月岡校下社会福祉協議会の委員が、災害に対する研修会などへ積極的に参加する。

(様式2)

活動強化方策策定に向けて

1. 月岡地域の主な活動（民生委員児童委員会関与）

- ・ 広報誌「福祉つきおか」発行推進 打合せから完了まで (年4回以上)
- ・ 月岡民児協月度定例会会議実施 (年12回)
- ・ 高齢者食事会の実施 (年8回)
- ・ デイサービス会社運営推進会議参加(2社) (年6回)
- ・ ふるさとづくり推進協議会運営推進サポート／地域福祉協議会参加 (年7回)
- ・ 月岡公園「壇の山」草刈美化清掃活動 (年4回)
- ・ 県内福祉施設見学／小・中学校との懇談会／月岡校下文化祭推進活動(各年1回)

※ 参考 民生委員児童委員12名(現在2名2年未満) 主任児童委員2名 合計14名

2. 地域で見えてきた現状と課題

- ・ 月岡福祉協議会の運営は民生委員の主体性から負担も多く軽減する為に、協議会組織の拡大で事業運営の充実化を求められます。
- ・ 月岡民生児童委員の経験年数3年未満67%と高く民生委員の職務経験不足者が多い
- ・ 前任者との引継ぎ不備とプライバシー保護の観点から住民の家族内容が分からず、訪問活動に影響を与えている。(能登半島地震に於いても見受けられた)
- ・ 民生委員の担当区割りで見見町5丁目が複雑で混合しているなど、職務に不具合が生じている事から区割りと要員数の整合が必要です。

3. 地域民児協として課題への取り組み方

- ・ 月岡校下福祉協議会の組織見直しで事業運営を行うため、民生委員と共に福祉委員の活動を推進する。
- ・ 民児協定例会で民生児童委員として「意識・認識・知識」の思いを高められるように、会議方法を工夫する
- ・ 民生委員担当地区の「住民支えマップ」作成を町内会と福祉委員と共に推進する。
- ・ 少子高齢化から区割の見直しを自治振興会と地区センターで改選期日迄に実施要請

4. 今後取り組んでいく目標

- ・ 月岡校下ブロック毎に、民生委員同席の上年2~3回福祉委員会の会合を実施する。
- ・ 月岡民児協定例会は、事例話題を取り上げ全員で解決手法を話し合う時間を設ける
- ・ 最低でも、後期高齢者の1人暮らしの方、避難行動要支援者のマップを作成する
- ・ 人口・世帯数などから判断して見見町4名を3名、西緑町1名を2名、検討依頼する。

5. 連携する機関との取り組み方

- ・ 連携する機関は、各町内会 → 地域包括支援センター → 月岡校下社会福祉協議会 → 自治振興会 → 地区センター → 富山市社会福祉協議会
- ・ 各機関の強みを活かし、役割分担を明確にする。
- ・ 地域の災害対策を強化するため、各機関と協働する目的・課題認識を共有する。

《月岡校下民生委員児童委員協議会『活動強化方策地域版2026~2028』》

- ①自治振興会・地域団体と連携し活動基盤を強化し、経験不足や区割り課題を解消。
- ②住民支えマップや高齢者支援マップを作成して支援体制を強化する。
- ③定例会で活動事例を持ち寄り話し合い、委員の意識・知識の向上をはかる。